

四季を楽しみに 暮らしを豊かに

建築例／静岡市『樹冠の家』

文・写真／ココラボ 山崎健治



右) バランダから朝日の差し込む2階の広間。大きく葎き下ろした屋根裏を現し、開放的でダイナミックな空間をつくり出している。

上) 広間に設けたロフトへの回り階段。ロフト空間を有効に使うために設けた階段だが、一部をスキップ形状とし広間のアクセントにもなっている。

二人三脚での家づくり

初めてKさんとお会いしたのは、ちょうど3年前の春、静岡市に建築した住宅の見学会の時でした。お話をしているうちにどことなく同じ匂いが…。建築にも詳しく目が家の細部に…。後からお話を伺うと元々静岡市の設計事務所にお勤めだったとか。建築に詳しいお施主さんとなるとなかなか話しやすいのですが、Kさんとの話はとても楽しく、好きな建築家の話や建築物の話で盛り上がり、打合せの際、何度も本題を脱線した事を今でも覚えています。

Kさん自ら設計をしていく事も可能だったと思いますが、良きパートナーを見つけて二人三脚で家づくりを進めていきたいと考えていた様です。すでに土地を購入して家づくりを考え始めていたKさんですが、やはり自分の納得のいく建築を進めたいがゆえになかなか第一歩が踏み出せず、あつという間に3年が経過してしまつたそうです。見学会で当社の建物をご覧いただき、様々な話をさせていただく中で方向性を見出し、いよいよ自宅建築に向けての第一歩を踏み出していく決意をされたようでした。その後も、木の事、住宅建築の事、構法や性能の事などたくさんお話を重ね、奥様を交えての二人三脚ならぬ三人四脚で、この土地に、そしてKさんご家族の暮らしに似合う木の家を考えていきました。





ベランダまで覆う長い軒先だが、軒先ガラスにする事で十分な採光が得られる。



板戸を開けても室内は明るい。ベランダと室内の境界が曖昧になり、室内がより広がった感じ。

軒先ガラスと板戸の工夫で、採光・通風・プライバシーの確保

2階での大きな特徴はやはりダイナミックな吹き抜け空間とそれに続く屋外スペースです。空間をより広く感じさせるため木製ガラス戸を使って全面開放できる仕組みとし、ベランダ空間を室内空間に取り込む工夫をしました。またベランダの先端に板戸を設け、板戸の開閉で視線や採光、通風をコントロールできるように考えました。さらにベランダ部分の軒先の一部をガラスで造りました。屋根はベランダ部分を覆い隠すように大きく掛かっているため、冬場の日当たりを考えてなるべく多くの採光を

得るために工夫した納まりでもあります。また、目隠しや風雨のために板戸を開けた時もガラス屋根からの採光で室内は明るくなります。板戸や軒先ガラスなどの少しの工夫でいろんな使い方ができ、多機能に、そして快適に暮らすための装置としてこの家の核になっている空間です。

2階に広間などの主な部屋を設ける際、頭を悩ませるのが浴室を中心とした水回りの配置です。設備やスペース的な事を考えると1階に設けた方が安心ですが、毎日の動線を考えるとやはりキッチンや広間などの同一階にあるのが便利。今回は2階になるべくコンパクトに配置し、1階のクローゼットから浴室などのメンテナンスができるように考えて問題をクリアしました。

今回のお宅は3層のお宅です。通常屋根裏になつてしまう空間を最大限に使用し、最上階にはボリュウムのあるロフトを作りました。ロフトには梯子などで上り下りするケースが多いですが、今回はロフトの利用頻度も多いだろうという事で広間の一角から回り階段でロフト空間に上つていけるように考えました。ロフト空間は多目的な利用を考え、間仕切りを少なくしオープンな空間としました。2人のお子様はすでに自宅から離れ、ひとり暮らしをされているという事で個室としての子供室は設けていませんが、ロフト空間を使って将来の変化に合わせていけるように考えてきました。



南から見た建物外観。板戸を設けた2階のベランダが印象的。敷地スペースを有効に使い、駐車スペース+アプローチも開放的なスペースになった。



2階に設けたベランダと軒先ガラス。天窗と違い屋根全体から採光を得ることができるため、冬季はベランダだけでなく室内まで十分な採光が差し込んでくる。

敷地条件とプランニング

今回の計画は市街地という事もあり住宅が建ち並んでいる中での計画でした。周りのお宅は敷地の3方を建物で囲まれている中、Kさんの敷地は南側の全面道路に加え西側に地域の方が利用する路地がありまして。路地のおかげで閉鎖感も少なくなり、通風や採光も期待できますが、路地からの視線や防犯についても考慮していく必要があります。また隣地建物の影響で日中の日陰も多いために部屋の配置や採光を得るための工夫も必要で、これらをトータルに考えてKさんご家族の暮らしに合ったプランニングを考えていきました。

Kさんが元々考えられていた計画案を基に考え、最終的にはロフト空間を利用した3層の計画案になりました。1階には玄関と寝室+クローゼットに加え、奥様の仕事部屋兼来客時のための畳スペースを設

けました。玄関と畳スペースは障子3枚で仕切られていて、必要に応じてつなげて利用することもできます。来客時にこの畳スペースでお話する事もできるし、畳に上がらなくても框に少し腰かけてお話をすることもできます。奥様のお仕事の関係で反物を広げる事もあるので便利だと話されていました。

2階スペースはこの家の中心的なスペースで、家族の集まる広間やダイニング、水廻りも全て2階に集めました。2階のほとんどはワンルームの構成で、広くダイナミックな広間と、コンパクトに配置されたキッチンとダイニングがひと続きとなっています。キッチンとダイニングはそれぞれ大きなスペースを設けていませんが、広間とのつながりや適度な区切り、またコーナーに配置した窓の効果が得られ、省スペースながら狭さを感じない空間になったと思います。



ベランダの板戸は色々な使い方ができる。中心に寄せて目隠し壁として利用。



夜や風雨の強い時などは板戸を閉めるが、雨戸を開けても室内はとても明るい。



和室から玄関を望む。玄関を通して路地からの採光を和室に取り込む。室内を広く感じさせるため、天井は玄関と一続きとした。



玄関の土間につなげて和室を設けた。ちょっと腰掛けて話をしたり、和室に上がってお仕事の打合せができる空間にしたいと考えてつくられたスペース。



キッチン
L型配置でコンパクトにまとめたキッチン。目隠し兼収納スペース確保のために設けたカウンターを介してダイニングとつながっています。



階段
広間に設けたロフトへの階段。回り階段とスキップ階段のコンビネーション。広間のアクセントにもなり、楽しげな雰囲気をつくっている。

『樹冠の家』 工夫・アイデア、 こだわりのご紹介

空間やスペース、素材をどの様に活かしていくか？ 単にデザインのみではなく、それぞれの機能や使い易さ、耐久性などを含めた工夫やアイデアが家づくりには大切です。Kさんと共に考えた工夫やアイデアをご紹介します。



路地植栽
完成後路地に面した敷地境界に、もみじとマンサクの生垣をつくっていただいた。地域の方々が利用する路地なので、路地を緑化して目を楽しませてくれている。



洗面所
人工大理石の天板のみ購入し、扉やガラス、棚板を合わせて作るオリジナル洗面化粧台。ローコストでシンプルな造りだが、綺麗にまとまり違和感を感じさせない。



床板
1階玄関と2階の床に使用した“山桜”の床板。硬質で丈夫な床板で、全体的に赤味のある色合いが特徴。色ムラがあるのでバランスも大切。大工が苦労して施工した床板。



右) 広間上部に設けたロフトと台形FIXの障子窓。午後になると障子からのやわらかな日差しが広間を包む。

左) ダイニングスペース。コンパクトに配置したダイニングだが、広間とのつながりやコーナー窓の効果で狭さを感じさせないスペースになった。ダイニングテーブルとベンチは建具屋さん製作。



四季に合わせた暮らし

今回写真撮影にお伺いしたのは3月の上旬。まだ少し肌寒い時期でしたが2階の広間にはサンサンと太陽の光が差し込み、暖かて明るい室内でした。お伺いしたのが午前中だったので、ベランダの軒先ガラスから心地良い朝の光が差し込んでいました。まだ暮らしはじめて1年経過していませんが、冬の季節はとても暖かく心地良く暮らせたよと奥様。ただ3層の建物なのでそれぞれの階の温度は全く別々。1階は日当たりも悪く人も居ないので日中でも室温は低め。逆にロフトは最上階という事もあり、また午後から太陽の光が差し込みポカポカとても暖かい。元々1階の畳コーナーで和裁のお仕事をする予定だったけど、やはり冬は暖かなロフトでやっているとか。逆に夏場になったら涼しい1階でお仕事をするかもしれないと話されていました。

現代の家づくりでは、四季の変化や外気の変化に関係なく1年を通して安定した室内環境を目指した家づくりが求められているように感じますが、果たして本当にそれが快適な暮らしに結びついていくのでしょうか？ 冬場の寒い季節だからこそ感じられるポカポカとした心地良さ、夏場の暑い季節だからこそ得られる涼しい風。一年を通して同じ環境の室内では寒さ暑さを感じる事は無いかもしれませんが、同時に四季折々の心地良さも失ってしまうように感じます。四季の変化を受け入れ、上手に快適に過ごしていく工夫をすることで、また新しい楽しみが生まれてくるのではないのでしょうか。

寒く厳しい冬が過ぎ、暖かで心地良い春の訪れ。春はベランダに出て楽しいことがたくさん出来るかな？ 新しい季節を新しい住まいで。家族や友人と、思いっきり春を楽しんでくださいな。



仕様内容

家族構成	家族 4 人
敷地面積	79.26 m ²
建築面積	47.49 m ²
延べ床面積	86.08 m ²
構法	在来工法 2階建て
外部仕上	屋根 ガルバリウム鋼板 縦ハゼ葺き 外壁 ガルバリウム鋼板 外部建具 ラスモル下地 漆喰仕上 木製オリジナル建具 桧 ペアガラス+アルミサッシ (ペアガラス)
内部仕上	天井仕上 杉板本実張り 厚 12mm 壁 クロス貼り 床 桜板本実張り 厚 15mm 内部建具 オリジナル木製建具
設備	キッチン オリジナルキッチン 洗面化粧台 オリジナル化粧台 浴室 ハーフユニットバス：日比野化学工業 壁、天井：青森パバ
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成 24 年 7 月

